

教育委員会会議の概要（令和7年8月定例会）

- ◆ 日 時 令和7年8月19日（火）午後2時00分から午後3時48分まで
- ◆ 場 所 教育局 第1会議室
- ◆ 出 席 者

教 育 長	天 野 元	出席
委員・教育長職務代理者	佐 藤 淳 一	出席
委 員	山 田 理 恵	出席
委 員	庄 司 弘 美	出席
委 員	長谷川 真 里	出席
委 員	永 富 良 一	出席
委 員	松 野 大 二 郎	出席

◆ 会議の概要

- 1 開 会
- 2 議事録の承認 7月定例会
- 3 議事録署名委員の指名 庄 司 委 員
- 4 報 告 事 項

（1）（仮称）仙台市教育構想 2026 の検討状況について

（総務課長 報告）

資料に基づき報告

長谷川 委 員 基本方針の並び順についての意見も出ているようだが、私は現在の並び順がよいと思っている。方針というのは、その適用範囲の広さや、どれほど抽象的であるかなど、幾つかの階層性があると思う。その中で、いわゆる価値というものは、絶対に守るべきものや、それは絶対にしてはいけないという義務に関わるものから、したほうがよいという程度のものまで層があると思う。その中で、基本方針1の「学びの機会」というのは学ぶ権利、つまり人権だと思う。人権は、人間にとって最も基本的な価値であるため、それが1番目に来るのは非常に妥当だと思っている。その上で、さらに個人の内面に踏み込んで「学ぶ意欲」や、他者との関係で「多様性」、そして基本方針4、5では少し視点を変えて生涯学習や地域学習に触れているため、よい並び順だと思っている。

佐 藤 委 員 基本理念についてお聞きしたいことがある。「育てたい人」ということで3点、トライアングルで明示されており、「生涯にわたって学び続ける人」と「多様な主体と認め合う人」については腑に落ちるが、「自分を受け入れ、自分を大切にすること」という文言に関して、例えば自分を受け入れることや、自分を大切にすることというのは重要なことであると思うが、この両方のベクトルが自分に向いているということで、いろいろな方向に解釈されてしまうのではないかと考えている。極端に言えば自己愛が強い人や、利己的な人、自己中心的な人といった解釈もできるような表現になっているが、これは、本市の子どもたちにとってこれから力をつけていかなければならない課題である、次代への要請として重要であるなどといった、議論の中で浮かび上がってきた言葉なのか。

総 務 課 長 この言葉が、自分らしく自分を受け入れ、自分を大切にすること、自分向きの言葉であるというご意見だと思うが、この言葉を検討するに当たり、自分に向き合い、自己理解を深めることで相手を理解しやすくなる、自分を理解しようとすることが自分の学び続ける姿勢につながるなど、決して自分だけではなく、他者であったり、さらには将来の自分自身にもつながるというご説明をして、ご理解をいただいたところである。

佐 藤 委 員 資料1に記載の文言も「自分を大切にすることで、学び続ける意欲につながる」となっており、学びのモチベーションは多岐にわたっているため、内発的動機づけをいかに行うかは、我々教育者の大きな使命の一つだと思うが、確かに自分を大切にすることで学ぶ意欲につながるというのは一つの要因かと思うが、ここも少し飛躍しているように感じる。また、「自分と向き合い学び続けることで、他者理解が深まる」という文言も、少し飛躍が入っているような気がしてならない。直接的ではなく、そのような考え方もできる程度と感ずるため、この言葉自体が、これから育てたい人として、スローガンのような言葉として使うことは適切なのかと思ってしまう。

私は、このメッセージの中に、もっと心を育むというメッセージがあってもよいのではないかと思っている。それが少し足りないようなイメージがある。ここも、他を思いやる人や、人の心の痛みを分かる人など、そのような子どもを育てたいということ強く感じるものであり、それがいじめの改善につながっていくものだと思うのだが、どうもこの部分だけを見ると、どうしても自分自身に向いているものと感じてしまう。その後他者とつながっていくのだと思うが、この言葉だけではそこまでの広がりが見えないと感じてしまう。もちろん、それがあってこそ、次のステップとして、他者への理解などにつながっていくものであると思うのだが、この言葉で固定化されてしまうと、果たしてそのような子どもを育てたいのか、これが目標なのかと感じてしまう。

総 務 課 長 第3回検討委員会の中でも、資料3の1ページ目の中ほどに、基本理念の説明文において、自分を受け入れ自分を大切にすることというところが、少し分かりにくいのではないかというご意見であったり、ここに出ているフレーズは重要であるため、次に出てくる説明文とリンクするような、分かりやすい形にしてほしいというご意見もあり、検討委員会のご意見を受け、事務局でも中身について今一度考え直しているところである。

佐 藤 委 員 もう1点、具体的な施策について、本市にとって非常に重要な発信が求められる防災教育についてはどこかに記載されているか。

総務課長 資料2骨子案の14ページの中ほど、施策2－3のところに記載があり、ここをさらにふくらませていく。

佐藤委員 資料1のスライドには入っていないのか。

総務課長 そうである。

永富委員 基本理念と、基本施策について目を通していただいているが、基本理念に「学びの循環」とあり、まちが人を育くみ、それがまちの活力を生み、さらにそれが市民の学びを支えるとなっているが、基本施策を見ると、確かにこどもたちが主体的に学び、どのような立場であろうとも、自分の位置づけを高めていくという部分はよいのだが、育てられた人たちがまちにどのように働きかけるのか少し疑問に感じていた。そこがよく表現されていないように感じる。

総務課長 資料2骨子案17ページ、まだ骨子案の段階ではあるが、施策の4－5に「地域における学びと実践の機会の充実」の部分に絡めて書き込んでいこうかと考えている。
また、18ページの施策5－5でも、その学びを生かしていくという部分を施策として取り組みたいと考えているところである。

永富委員 せっかく循環と書いてあるので、色々なコミュニティが仙台市内にあるが、育てられた人たちがそのコミュニティに貢献するといった、そのようなところが表現されると、基本理念に書かれたことがより浮き彫りになるのではないかと感じた。

総務課長 いただいた意見を参考に、中間案に向けて検討を進めたいと思う。

永富委員 結局、こどもであっても、コミュニティの一員であるため、そのコミュニティから何か受け取るだけではなく、こどもたちに役割というようなことを言うてしまうと少し厳しい表現になるが、コミュニティの一員としてという自覚や意識などを持っていただくのが重要であると感じる。大学生に聞くと、コミュニティとの関わりが強くなればなるほど、一員としての自覚など、またコミュニティに戻ってきた際に活用できることもあるかと思う。もちろん職場や、その先の社会での様々な仕事上の役割もあるが、そのようなところを表現していただくと、この「循環」のところがつながるように感じた。

総務課長 いただいたご意見を踏まえて、中間案に向けて作成を進めたいと思う。

山田委員 前回、基本方針に「いじめ対策・不登校児童生徒等支援」を第一に持ってきており、何となく違和感があると言っていたところから、「学びの機会を守る学校教育」を方針に持ってきたのは、良いことだと思い拝見していた。こちらの方が、他の方針と同等の扱いとなっており、その中で「いじめ対策・不登校児童生徒等支援」を第一に持ってくるという考え方で、このような形にされたのだろうと思い、良いことであると感じた。

先ほど長谷川委員がおっしゃったように、学びの機会を守るという最も基本的なところが最初に来るのは当然であると思うし、資料1の5ページの図には、この基本理念の下に四つの基本方針があり、一番下に基本方針5とあるが、どちらかというと基本方針1が基本理念のすぐ下に来て、その上で基本方針2、3、4があり、一番下に持続可能な体制づくりのように、サンドイッチ型のようなイメージなのではないかとも感じた。ただし、このような並び方や、いじめ対策をこのような形で書き換えたことについては、前回よりも少し腑に落ちるような気がした。

また、先ほどご意見のあった、「人がまちをつくる」という部分について、私も全体的な方針としてはよいのかもしれないが、確かに少し飛躍しているようにも感じる。

イメージとしてはこれでよいという感覚があるのかもしれないが、学んだ活力がまちの活力にどうつながっていくのか。先ほどおっしゃっていた、生涯学習であったり、大人になってからも学べるということは、これとは違う話であり、学んだ子どもたちが大きくなり、それが地域の活性化にどのように役立っていくのかといったことが、もう少し分かりやすく記載されていてもよいのではないかと感じた。

「自分を受け入れ、自分を大切にする」ということは、自己肯定感のようなところをこの文章に直されたのだと思い、それも間違っていないとは思うのだが、「生涯にわたって学び続ける」「多様な主体と認め合う」という部分と、自分を受け入れ自分を大切にするというところが、どのようにつながるのか、少し分かりにくいように私も感じた。ただし、方針として出したときに、言葉だけが頭に入ってくるイメージとして、理念として見るという意味で、このような言葉を入れたのかもしれないが、よく見ると少しつながらない部分もあるなど、腑に落ちないところもあり、もう少し何かにつながるとよいのではないかという気がした。

ずいぶん前回から変えていらっしゃるので、色々と考えられてつくられているのであろうとは思いますが、一見して感じたことを申し上げた。

総務課長 まず基本方針2、3がメインになりつつも、その前に基本方針1で機会を保障することがまず大前提だということもあるため、山田委員のご意見のような描き方もあるのかと思うが、基本的には基本方針1、2、3が同じ学校教育という並びの中で抜き出している部分でもあるため、このような書き方にさせていただいていた。

また、人がまちをつくるということについても、先ほども資料2骨子案の冊子にてご説明差し上げたところではあるが、なかなか分かりづらく、もう一工夫必要なところもあるので、例えば資料2の17ページのところであれば、基本方針4の下にその方針を説明するような文書があるので、そのようなところで少し分かりやすく、伝わりやすいような書き込みをし、中間案に向けて修正していきたいと考えている。

それから、自分を受け入れ自分を大切にするという部分も、先ほど申し上げたとおり、少し分かりにくいというお話もあったので、そのような部分は、図にあるフレーズと方針の説明文が合致するように、中間案に向けた修正を現在検討しているところである。

永富委員 教育というものは、私たちのコミュニティーを継承していくことが期待されるわけである。そのために皆一生懸命子どもたちを育てていこうとなるわけであり、理念に書かれていることはそのとおりでよいのだが、そのような次代を担う人たち、これから私たちがこのまちをどう発展させていくか、そのような人たちが育っていくというイメージが少しでも表現されるとなるとよいと感じた。

総務課長 いただいたご意見も踏まえて検討したいと思う。

(2) 令和7年度全国学力・学習状況調査結果の概要について

(学びの連携推進室長 報告)

資料に基づき報告

教 育 長 I R Tの説明がなかったように思うが。

学びの連携推進室長 今年度は中学校理科がオンラインC B Tで実施されており、その結果についてはI R Tスコアという数値で示されている。I R Tスコアというのは、500を基準とした

得点で表すものであり、全国平均の 503 は基準よりも若干高い、仙台市の 519 はそれよりもさらに高いという結果となっている。

I R T のスコアについては、児童生徒の正答誤答が問題の特性、難易度によるものなのか、児童生徒の学力によるものなのかを区別して分析し、児童生徒の学力スコアを推定する統計理論と言われており、T O E I C や T O E F L などでも活用されているスコアとなっている。

さらに、こどもたちへの結果の冊子については、数値スコアではなく、I R T バンドというもので示されており、こちら資料にも記載があるが、1 から 5 までの分布、I R T バンドを用いて児童生徒への結果の数値という形になっているのが、今年度と昨年度で異なるところである。

庄 司 委 員 気になったところがあったのだが、資料 15 ページの 38 番に「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか」という質問があるが、小学校はそうでもないが中学校がずいぶん低い値となっており、これは毎年聞いている質問なのか。中学校のところだけが低い値となっているので、たまたまこういう結果が出たのか。こういった質問は毎年しているのか。

学びの連携推進室長 そうである。中段の数値が昨年度の結果となっており、質問番号が白枠となっている項目が毎年行っている設問である。中学校ではおっしゃるように全国よりも少し数値が下がっており、さらには昨年度の仙台市の数値と比較しても、少し下がっているという状況となっている。原因の分析まではまだできていないところであり、こちらは今後検討し、施策に生かしていければと考えている。

佐 藤 委 員 非常に難しいかもしれないが、小学校が全国とほぼ同水準で結果が出ており、中学校は良好な結果となっている。中学校になると結果が向上するという点について、要因として考えられることはどのようなものと捉えているか。

学びの連携推進室長 長年にわたりこのような結果が出ているという状況が見られるが、小学校 6 年間で育んできた基礎の部分が中学校 3 年間に引き継がれ、さらにその 3 年間を通して、最終的な結果として現れてきているもの、小中を通した 9 年間の学びが最後に結果となって現れているのではないかと考えているところである。

佐 藤 委 員 全国学力調査の結果が長年にわたってそのような傾向が出ているということは、もっと評価されていいことだと思う。仙台市のこどもたちのポテンシャルの高さを物語っていると感じており、学年進行とともに、一部を見ているに過ぎないかもしれないが、学力についてずっと良好な結果を出しているということに関しては、生徒の学習への取組も含めて先生方の指導改善や、先ほどの質問調査においても、I C T の活用など様々な面で先生方がこどもたちの学力向上に対して尽力なさっているということの結果の現れだと思う。仙台市の場合は課題も色々あり、もちろん学力の課題はまだまだ改善していかなければならないが、どうしてもほかの課題がクローズアップされがちで、学力で頑張っていることに対しては、どうも矮小化されて評価されているような気がしてならない。こどもたちの頑張りも先生方の頑張りも、評価するべきであると思うし、ぜひ校長会等で先生方の自己肯定感も上げていただければと思って

教 育 長 中学 1 年生の取組をご紹介したらよろしいのではないかな。例えば、数学 A のブリッジの話などはどうか。

学びの連携推進室長 中学校1年生の数学の授業において、この仙台市の標準学力検査結果を基に、限られた学校数ではあるが、少人数で授業ができるように非常勤講師を配置しているところがある。このような取り組みの成果も、中学校の結果となって現れている一つの要因ではないかと考えている。

山田委員 2点ほどお話をしたいと思うが、1つが資料17ページの64番、「将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思いますか」という設問について、この30%という結果は衝撃的であると感じた。ほかの設問については、80%や70%の数値が出ており、この設問だけ急に30%になっている。さらには、それが小学校では30%であるが、中学校になると22%に下がっている。国では科学技術、IT関係などAIの人材をいかに増やすかという取り組みを一生懸命行っているかと思うが、ここは全く効果が出ていないように思う。なぜこのような結果になるのか、これは全国的な問題だとは思いますが、一つの課題として捉えていただき、どのような対策を打つべきか考えてもよいのではないかと感じた。その上の設問に「理科の勉強は好きですか」、「理科の授業の内容はよく分かりますか」とあり、ここは大体80%、90%の結果となっているが、そのような職業には就きたくないというのはどういうことなのかという疑問がある。ここは非常に残念だと感じるポイントである。

また、全体的に仙台市の結果と全国の平均を比べているが、全国平均との比較でいいかどうか。昨年もお話したと思うが、例えば首都圏だけを取り出して比較したり、政令指定都市で比較したらどうなるかなど、そのようなデータもあるかと思うので、ぜひ比較すべきではないかと以前から思っている。全国平均を上回ったから、何ポイント上回ったからよいのではなく、首都圏の児童生徒さんはさらに上の段階にいる可能性があり、高校、大学受験の際には、そのような人たちとも競わなければいけないような状態になる。現在教育格差で首都圏は小学校受験、中学校受験が加熱しており、より上のレベルにいる。そのような人たちが地方の大学に一気に来つつあるという話もあり、地元の人間が地元の大学に入れなくなるような現象もある。そのため、現在仙台市の置かれている立ち位置のようなものを、今一度確認しておく必要があるのではないかなと思っている。

もう一つ、全国平均との比較になった際に、首都圏の私立中学校に行く子どもたちのデータはおそらく除かれているだろうと考えており、その子たちが加わったときにどのような結果となるか、去年もお話をして、結果としてはあまり変わらないとは聞いたような覚えもあるが、そのようなところも押さえておいたほうがよいのではないかなと思う。

学びの連携推進室長 首都圏、政令市の結果については、今年度は公表の仕方が文部科学省のほうで変更されており、8月末から秋頃にかけて各自治体の結果を公表するということで、そちらの結果が出た際に、併せて分析を進めてまいりたいと考えている。

また、私立を含めた平均も出ており、それも含めると505という数字になっており、私立学校だけを拾うとさらに高い平均値が出ており、国立学校についてもさらに高いという結果が出ているため、そちらのほうも併せて分析を進めてまいりたいと思う。

教 育 長 ちなみに政令指定都市で昨年度の分析はどうなっているのか。

学びの連携推進室長 小学校については、全国と比べて政令市の中では中位群となっており、中学校については政令市の中ではかなり上位という結果となっている。

松野委員 これは個人的には何か結果として返ってくるものであるのか。

学びの連携推進室長 結果については、すでに学校に渡っているので、学校によって配付する時期はまちまちではあるが、いずれご家庭にも結果として配付される予定である。

松 野 委 員 この調査は4月17日に実施されたとのことであるが、この日に学校に來れていない子、不登校ぎみの子たちは、後日改めて実施しているのか。

学びの連携推進室長 後日実施の期間も設けており、その期間で実施できるお子さんに対しては、その期間で実施していただくというような形になっている。

松 野 委 員 資料13ページの「朝食を毎日食べていますか」などの設問については、親としても見てみたいところであり、不登校の子たちが今後コミュニケーションを取るときにも、学校でこのような情報があると、何かの糧であったり、活用できるのではないかと感じた部分でもあったため、その確認であった。

学びの連携推進室長 各学校においても、この児童生徒質問調査の結果が送られているので、その分析を進めているところだと思う。

永 富 委 員 全国平均を上回っているところは、それはそれで喜んでいいことだと思うが、先ほど佐藤委員がおっしゃったように要因分析が重要であると考えており、例えば、全国平均を下回っていても、誤答している子どもたちがいるわけである。正解が答えられなかった、あるいは答えを出さなかった、無回答の子どもたちもあり、一方で、学習意欲や生活習慣など様々なことを聞いているため、そのような部分のクロス集計等は比較的簡単にできるかと思う。したがって、うまくいかなかった子どもたちがどのような要因によって、それが生活習慣なのか学習意欲なのか、あるいはそこに答えがないのかもしれないが、そのような分析もあつてしかるべきではないかと感じた。逆に、よい結果については、意欲が高い子と関連しているといった分析もできるのではないかと思った。

それから、先ほど山田委員がおっしゃっていた、様々な地域との比較、例えば首都圏との比較もあるが、同じ仙台市域内でも、PTA活動が盛んなところとそうでないところなど、学校単位や学校の規模、それによっても違いがあるかもしれないので、あまり細かい項目にわたってもしようがないとは思いますが、そういう大づかみところで皆さんが思いつきやすいものについては、クロス集計等での分析があると分かりやすいかと思った。

学びの連携推進室長 教育委員会では東北大学と連携協定を結んでおり、そちらで学力と生活学習状況調査についての相関関係、クロス集計を行っている。また、まだ詳細はお話できないが、東北大学の経済学部とも連携を結んでおり、そちらのほうでも様々な要因分析を行っているところである。

5 付 議 事 項

第16号議案 令和6年度の教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について

(総務課長 説明)

資料に基づき説明

原案のとおり決定

第 17 号議案 令和 8 年度仙台市立鶴谷特別支援学校高等部入学者選考方針について

(特別支援教育課長 説明)

資料に基づき説明

原案のとおり決定

第 18 号議案 文化財の指定について

(文化財課長 説明)

資料に基づき説明

原案のとおり決定

第 19 号議案 市議会の議決を経るべき事案に係る市長への意見の申出について

(1) 令和 6 年度決算の認定について

(総務課長 説明)

資料に基づき説明

原案のとおり決定

(2) 工事請負契約の締結に関する件

(仙台市立秋保小学校校舎等及び(仮称)仙台市秋保児童館新築工事)

(学校施設課長 説明)

資料に基づき説明

原案のとおり決定

(3) 工事請負契約の締結に関する件

(仙台市教育センター大規模改修工事)

(仙台市教育センター大規模改修電気設備工事)

(仙台市教育センター大規模改修機械設備工事)

(教育センター所長 説明)

資料に基づき説明

原案のとおり決定

- (4) 工事請負契約の締結に関する件の一部変更に関する件
(仙台市立北仙台中学校校舎等増改築工事)

(学校施設課長 説明)

資料に基づき説明

原案のとおり決定

- (5) 財産の取得に関する件
(学習者用コンピュータを取得するもの)

(ICT 教育推進担当課長 説明)

資料に基づき説明

原案のとおり決定

6 閉 会